

アイムポッシブル

I'mPOSSIBLE アワードの国内受賞校発表

東京2020パラリンピック閉会式にて 共生社会実現につながるパラリンピック教育の実践を行った学校を表彰



©Takashi Okui

この度、9月5日(日)東京2020パラリンピック閉会式にてI'mPOSSIBLE アワードの表彰が行われました。
I'mPOSSIBLE アワードは、パラリンピック・ムーブメントを通して、インクルーシブな世界の実現に多大な功績を収めた学校とパラリンピアンに贈呈される賞です。この賞は国際パラリンピック委員会(IPC)が設立し、日本財団パラリンピックサポートセンターが支援を行なっています。

日本国内からも学校2校が表彰され、各受賞校より教員1名、児童生徒1名ずつが出席しメダルを受け取りました。
日本国内では、IPC公認教材『I'mPOSSIBLE』日本版を活用してインクルーシブな社会づくりに貢献する活動を行った学校177校から応募がありました。(募集期間:2019年10月1日~2020年1月31日)
詳細は別添の資料およびWEBサイト(<https://www.parasapo.tokyo/iampossible/award/>)をご覧ください。

<受賞者>

開催国最優秀賞・・・木更津市立清見台小学校

『I'mPOSSIBLE』を活用して共生社会の実現に向け最も優れた取り組みを行った日本の学校

開催国特別賞・・・千葉県立東金特別支援学校

『I'mPOSSIBLE』から学んだことを地域コミュニティの課題解決に活かし、優れた取り組みを行った日本の学校

海外最優秀賞・・・リロングウェLEA小学校(マラウイ)

パラリンピアン・・・ラッサム・カongo(陸上競技・ザンビア)、カタジナ・ロゴヴィエツ(クロスカントリースキー・ポーランド)

※日本の受賞校以外の受賞者の詳細については、下記URLをご参照ください。

<https://www.paralympic.org/news/i-mpossible-supporters-recognised-tokyo-2020-closing-ceremony>

【お問合せ】

I'mPOSSIBLE アワード日本事務局

(公益財団法人日本障がい者スポーツ協会日本パラリンピック委員会/日本財団パラリンピックサポートセンター)

TEL:03-6229-5404 / FAX: 03-6229-3722

Email: iampossible@parasapo.tokyo(※原則メールでお願いいたします。)

【資料①】 I'mPOSSIBLE アワードについて

国内受賞校紹介

【開催国最優秀賞】 木更津市立清見台小学校



パラリンピックについて学ぶことで児童の障がいに対するイメージを変えるだけでなく、「共生社会の構築」へと児童の学びをつなげるため、障がい当事者の方との交流をバリアフリーについて考える機会にしたり、自分の住む地域へ目を向け誰もが暮らしやすい社会にするための具体的な方法を考えるなど、計画的かつ効果的に実践を行いました。周囲を巻き込みつつ、児童の自主性を引き出しながら、学校や身の回りの社会のバリアフリーや共生社会について深く考えました。



菅野 元治 先生

このようなすばらしい賞をいただくこととなり大変光栄に感じています。東京2020パラリンピックが終了したこれからはパラリンピック教育の本当のスタートだと感じています。大会そのものは、ほとんど無観客での開催となりましたが、多くの人がパラリンピックの工夫を目にし、アスリートの努力や競技の魅力について気づくことができたと思います。その工夫や気づきから子どもたちとともに学び、社会全体の変革の一端を担う児童・生徒を育成することが自分に与えられた役割です。この学びの機会を一過性のものにするのではなく、『共生社会が実現する日』まで教育現場で継続的に取り組んでいき、自分の役割をしっかりと果たしていきたいと思っています。

【開催国特別賞】 千葉県立東金特別支援学校



「オリ・パラ推進隊」を結成し、学校内にとどまらず、パラスポーツについて歌った「オリパラソング」や競技を説明する動画を作成したり、生徒自身が講師となって地域の小中学校にボッチャのルールを解説し一緒にプレーする「オリパラ・キャラバン」を実施するなど、地域に対してパラスポーツの楽しさを伝える創造的な取り組みを数多く展開しました。周りの人々の障がいに対する意識を変えたとともに、活動を通して生徒たちの自信も育みました。



古川 文彦 先生

この度、このような荣誉ある賞をいただくことができ大変光栄に思っております。東京2020大会が終わってからが本当のパラリンピック教育のスタートだと感じています。東京2020大会閉幕後に持続可能な教育実践を学校や地域に残していき、インクルーシブな社会づくりにつなげていくことが大切であると思います。そして、この教育実践が5年、10年と自然と継続され、気づいた時に校内や地域の方に「これって、東金特別支援学校の東京2020大会でのレガシーだね」と思っただけのように努めていきたいと思っています。

※授業風景の写真は2019年の応募時に提出されたものです。

I'mPOSSIBLE アワードの国内募集について

<対象>

日本国内の小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校、高等専門学校(3年生まで)及び専修学校高等課程(国立・公立・私立全て)

<募集期間> 2019年10月1日～2020年1月31日

<応募総数> 177校 (全国41都道府県より応募あり)

<選考の流れ>

①国内応募全177校を対象に事務局にて一次審査を行い、上位7校を選出

学校・教員の計画性・積極性、地域への波及効果、児童・生徒の理解・知識習得・行動の変化などの基準項目をもとにして、全学校の応募を各学校複数人で厳正に審査

②国内最終選考委員会にて上位7校から各賞2校ずつ候補校を選出(2020年2月20日に実施)

③その候補校から、アギス財団・国際パラリンピック委員会が組織する選考委員会が受賞校を決定(2020年3月)

【資料②】教材『I'mPOSSIBLE』日本版について

『I'mPOSSIBLE』国際版について

学校教育を通じたパラリンピックムーブメントへの意識向上による共生社会の促進を目的として、アギトス財団が開発した世界中で使用されている教材です。教材の名前『I'mPOSSIBLE』は、「不可能(impossible)だと思えたことも、考え方を変えたり、少し工夫したりすればできるようになる(I'm possible)」という、パラリンピックの選手たちが体現するメッセージが込められた造語です。2020年9月現在、日本を含め37か国がプログラムの実施に向け、IPC・アギトス財団と同意書を交わしています。

『I'mPOSSIBLE』日本版について

パラリンピックを題材に共生社会への気づきを子どもたちに促す教材です。アギトス財団が開発した国際版教材の内容をもとに、日本の教育現場での活用のしやすさを考慮して、I'mPOSSIBLE日本版事務局と公益財団法人ベネッセこども基金が共同で日本版教材を開発しました。日本版は、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会の東京2020教育プログラム「よよい、ドン！」のパラリンピック教材としても位置付けられています。

2017年4月 小学生版第一弾配布

2018年6月 小学生版第二弾、及び中学生・高校生版第一弾の配布

2019年5月 小学生版第三弾、及び中学生・高校生版第二弾の配布

2020年6月 中学生・高校生版第三弾の配布

2021年5月 「東京2020パラリンピックのレガシーについて考えてみよう！」WEB公開

また、教材は全て無償でダウンロードが可能で、2021年7月末時点での資料ダウンロード数は12万件以上に達しました。

公式サイト：<https://www.parasapo.tokyo/iampossible/>



中学生・高校生版第三弾
(2020年配布)

『I'mPOSSIBLE』日本版を活用した教員の声

『I'mPOSSIBLE』は授業に必要なものがすべて準備されていて、誰でも、どの地域でもすぐに授業を行うことができます。学校独自の工夫をしたいと思ったら加えることもでき、活用しない手はありません。(愛知県・校長)

WEB上にたくさんの教材が掲載されており、ダウンロードすれば電子黒板に映せるので、これからも活用していきたいです。(宮城県・教諭)

今まで生徒に伝えきれなかった、人の多様性を受け入れる共生社会の実現に向けた人格形成にとっても重要な教材だと思います。今後も教材を活用しながらパラリンピック教育を進めていきたいです。(千葉県・教諭)

のべ1万人の教員が教員研修を受講

『I'mPOSSIBLE』日本版を活用したパラリンピック教育の意義や進め方を伝え、授業への導入に対する不安を解消し教材の活用を促進する目的で、教員向けの研修を実施しています。これまでにのべ1万人以上が受講しています。

- 団体向け・・・地方自治体の教育委員会などが主催する研修での講師依頼を受付。対面、オンライン2形式
- 個人向け・・・教員個人で参加できる研修を開催 オンライン形式
基礎編(60分)・・・パラリンピック教育の意義、教材の概要と使い方など
応用編(80分)・・・国内外での活用事例の紹介、グループディスカッションなど



<受講者の声>

「画面共有やチャットを使用して、会場に集まって受ける研修以上に主体的で有意義な研修を受けられました。」

「授業をする具体的な方向性やイメージが湧きました。いろいろな教科に対応、応用できる教材だと思います。近い将来、共生社会を実現するためには、私たち教師の力が大きいと感じました。」



詳細 <https://www.parasapo.tokyo/iampossible/trainers-training-individual/>